

コウノトリが舞い降りる湿地の保全と再生

復建調査設計(株)水工技術部 正会員 ○木村 雄二* 若宮 慎二*
豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課 佐竹 節夫** 上田 篤** 新田 佳代**

1. はじめに

兵庫県豊岡市は日本で最後までコウノトリが野外で暮らしていた場所である。現在では長くねばり強い取り組みにより人工飼育した個体が増加し、平成17年9月より野外への放鳥の試みが行われている。周辺ではコウノトリも棲める豊かな環境づくりが様々な主体のもとで行われている。本稿は、円山川下流域に位置する兵庫県豊岡市城崎町戸島地区の水田において、コウノトリが舞い降りる湿地の保全・再生を目的とし、コウノトリの餌となる多様な生き物が生息できる環境条件や、コウノトリが採餌しやすい条件、また、これらの環境を維持管理するための方策について検討をおこなった結果を報告するものである。

2. 背景

豊岡市は兵庫県北部の日本海側に位置する。平成16年10月20日の台風23号により市内を流れる一級河川円山川が氾濫し、周辺に多大な被害をもたらした。平成17年初夏、平成14年8月5日から豊岡市へ飛来し定着していた野生コウノトリ“通称：ハチゴロウ”が、圃場整備実施中の戸島地区水田に舞い降り、以降、頻繁に利用するようになった(写真-1)。豊岡市は地元市民の理解を得て、当該水田を買い取り、湿地として人為的に整備・管理し、「ハチゴロウの戸島湿地」と名称して将来にわたりコウノトリが舞い降りることができるよう保全していくこととした。



写真-1 ナマズを捕食するコウノトリ

3. 整備の方針

コウノトリが舞い降りることができると整備の目標として、その上で周辺農地との共存を図りながら観光や環境学習など多面的に活用できることを基本方針とした。これらの検討にあたっては、現在成立している多様な水辺生物の生息・生育環境の保全・再生を考慮する計画とした。

3. 1 現在の多様な生息・生育環境の保全・再生

水田からの排水路の流末は隣接する円山川の楽々浦湾に繋がっている。水路には簡易な堰があるものの、堰の上流側には回遊性の魚類であるイトヨ(降海型)が確認されている。またナマズやコイ、ギンブナが多数確認されており、出水時には水田－水路－河川・海域までの連続性があると考えられる。また水田の東側に隣接する山林部には谷間からの湧水があり、溪流環境を呈し、水田に流入している。ここでは溪流性のミヤマシマトビケラ属やタゴガエルが確認され、早春季には水田内にニホンアカガエルの産卵が確認されるなど、水田－溪流－山林といった連続性も成り立っている。このように戸島地区の水田は、山林－溪流－水田－水路－河川・海域までの多様な環境の連続性、いわゆる“エコロジカルネットワーク”が成立した場所であり、これらの保全・再生を考慮した上で湿地整備の検討を行った。

3. 2 湿地の構造

① 多様な餌環境となる湿地のタイプ(図-1)

湿地環境としては、多様な餌環境を保全・再生することを目的に汽水域と淡水域の2タイプの湿地を整備する。汽水域は通年水位変動があることから、水位が低い冬季を基準とし、干潮時には干上がり魚が逃げ込める深み(水深0.5～0.7m)を配置する。淡水域は通年水位が一定になることから、コウノトリの採餌に適した水深0.15m¹⁾に設定する。また淡水域においても魚が逃げ込める深み(水深0.5～0.7m)を配置する。

キーワード コウノトリ, 湿地, エコロジカルネットワーク, 維持管理, 自然再生

連絡先 * 〒732-0052 広島県広島市東区光町2丁目10-11 復建調査設計(株)水工技術部 TEL082-506-1856

** 〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2-4 豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課 TEL0796-21-9017

